

1



hina no marebito のまれびと

その原点  
は「北杜夫  
な、中学時代  
に『どくとる  
マンボウ航海

ミステリーな  
ど280冊を  
超す。

あきる野市二宮の米山医院を訪ねると、ロビーにエキゾチックな油彩画が何点も飾られている。「あ、これ、先代でやはり医師だった親父の作品。巧いでしょ」。白哲長軀の米山公啓氏が説明してくれた。どうやら、二刀流は家系らしい。米山氏は医師と作家。著書もエッセイから医学

## ベストセラー作家と医師の二刀流

よねやまきみひろ

作家・医学博士

米山公啓氏 (67)



記」を読んで、医者になれば世界中を回れて面白そうだなと思った」。その後も北杜夫の兄・斎藤茂太も愛読。都立立川高校在学時代はミステリーの素地となる筒井康隆、大学では米国のSF作家・マリオン・ジマー・ブラットリーに耽溺したという。大学院2年目のとき、循環器内科から神経内科への転科が医師としての転機となる。当時の神経内科は「患者を寝かせておくしかできない」と押揃えられたり、見学のために足を運んだ山奥のある病院では30人ほどの老人が手足を拘束された状態で放置されていた。

「おかしいことはおかしい」。この現実への反発が、大学の勤務医時代、メスをペンに持ち替え、医者の本音を綴る。その後、「認知症」という言葉がない時代に「もの忘れ」の視点で脳活性、脳トレの本を書き、それが次々にベストセラーとなった。米山氏は、脳を若返らせ認知症を予防するためには「新しい体験をすることです。そのためには、新しい情報が入る環境が必要。子や孫がやっていることを見て、自分もやろうと思わないと難しい。僕も60歳を過ぎて、何もしない時期が2年間ほどあったが、それではいけないと思い、いまはiPadの判定アプリを使ってピアノに挑んでいる」という。さらなる夢は「自作の映画化、もちろんハリウッド作品として」と微笑んだ。